

まねと同じ。

言葉 「言う」と同じ手まね。

好む 指頭を上にした親指と人差指の間をV字形に開いて、顎を下から挟むようにしてから、下へ引き降すと同時に両指の指頭を合わせ閉じる。(掌は内側)

この手まねの位置が顎にあるので、食物の好みから出たものと思われる。即ち、「おいしくて肘がはずれる」程で「好む」「好き」となったものか。

拒む (イ) 首を振り、腕を曲げて肘を横へ張る(肘鉄砲の形)(ロ) 五指の指頭を上にして掌を前に向けた両手を左右に並らべて斜め前方に突き出す。受けつけないと云うこと  
五分五分 掌を内側に親指と人差指の指頭を下方にさした両手を左右に×形と交叉して両手の二指の指頭を合せ閉じる。「同じ」手まねと同じ要領。

胡麻化す 「狡猾」と同じ手まね。

米 右手人差指で歯をさし(「白」の手まね)、その人差指(指頭を左にさし)を左手の親指と人差指で輪にした上(他の四指は伸ばしたまま)最中にさしわたすように置く。

御指免なさい 「謝まる」と同じ手まねをすればよい。

御免御免(悪るかった悪るかった)五指の指頭を上にしたし掌を左側に向けた右手の親指を下口唇につけ、他の四指を波打たせる。「すまないことをした」「拙いことをした」の意味の「御免御免」である。

困る 誰れもがするように、頭を掻く身振  
恐い 「恐れる」「恐ろしい」と同じ手まね  
こわれる(こわす) 両手で一枚のせんべい  
か何にかを持って二つに裂き破る身振。

殺す 左手の、対象が男性なら親指、女性なら小指に、右手の人差指で突き刺す身振を

して——「死ぬ」の手まね。

こらえる 五指の指頭を左にさし掌を下に向けた右手を僅かに彎曲させて、腹上部にびったりとつけて下へ圧えるように降す。腹の虫を圧えること。

衣（法衣）僧——着物。

根本 「根」と同じ手まね。

## サ

サード（三墨手）「司<sup>つかさど</sup>る、（政治と同じ手まね）の手まねの姿態のまま、右手（腕を立てた方）で、「三」の数を表わす。☞

採決 会議——決める。

最後 「終り」と同じ手まね。

最初 「初め」と同じ手まね。

裁判 指頭を上にした両手の親指を左右に対立させ、交互に上下させる（批駁の手ま

ね）、考える表情をして——見きわめる（「監視」と同じ手まね）

財布 左手の掌を右側に向け、指頭を前ににした五指を曲げて、親指と他の四指でコの字形をつくり、財布の口を形どり、右手で「金銭」を表わしたのを、その財布の口にさし入れ、その手で財布の口についているとめ金をねじってしめる身振をする。

裁縫 両手の夫々人差指と親指の指頭をつけ合わせて、一方に針を一方に布を持った心得で、両手の手首を動かし左へ移動させる。物を縫って行く身振。

採用 男性或は女性を表わした左手の指の少し上で、右手の指頭を下にした五指を集めてものをつかむようにして、同時に両手を胸元に引き寄せる。

幸い 「幸福」と同じ。  
遮る 身をかばうように、左手を右胸脇に